遺そう！ 守ろう！ 北の歴史と文化財　Hokkaido Cultural Property Protection Association

文化情報

会報 Vol.410
令和8年9月1日発行
SINCE 1961
一般財団法人
北海道文化財保護協会

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル9階 電話・FAX；011-271-4220
Website；https://hokkaido-bunkazai.jp　E-mail；bunho@abelia.ocn.ne.jp

岩見沢市指定文化財
ガラス乾板にみる地域の歴史



ガラス乾板（写真）が伝える岩見沢の歴史

岩見沢市は、西部に石狩川流域の平野、東部に夕張山地を形成する山々が連なる北海道中西部のまちです。市では昨年12月、明治30年代後半から昭和10年代前半にかけて撮影されたガラス乾板392点と関連資料を市有形文化財に指定しました。掲載の写真はそのうちの一枚です。昭和5年に撮影されたと推測される農作業の風景。動力脱穀機で作業する人々の後ろ姿があり、背後には藁葺きの住宅が見えます。ガラス乾板は、ガラス板の上に写真乳剤を塗って乾燥させたもので、写真フィルムと共通する役割を持っています。文化財に指定されたガラス乾板は厚さ約1㎜、大きさは16.5×12㎝の小キャビネ版と呼ばれるサイズが約7割を占め、一部に割れや劣化が見られるものの良好な状態で保たれています。関連資料には、ガラス乾板を納めていた紙箱等が含まれます。

主な撮影者は、明治25年に市内志文町へ入植し、辻村農場の主となった辻村直四郎です。小説『馬追原野』を書いた作家、辻村もと子の父としても知られ、この主人公のモデルとなった人物です。当時、岩見沢町の農会長や町会議員を務め地域の発展に尽力した方です。その人物像を反映するように、被写体は家族、農場、地域の行事、別荘のあった蘭島（小樽市）、旅行先の道東、趣味の生け花など多岐にわたり、当時の生活や産業の歩みを示す貴重な写真群となっています。また直四郎は手記等で写真撮影の日時や経緯を記録しているため、これらと照合することで確かな情報を持つ歴史資料として活用できます。

市では今後、個々の写真を調査し、地域の資料として活用できるよう整備を進める予定です。公開の際には、ぜひご覧いただきたいと思います。

（岩見沢市教育委員会生涯教育課郷土科学館学芸員　神田いずみ）